

SRD キット 日産 A1S フェアレディ Z R34 MT 車

この度は弊社製品をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。
ご使用の前に本書を必ずお読み下さい。

本説明書の内容

A.使用目的・概要

製品の使用目的、概要等が記してあります。取付け車輛の使用者は必ずお読み下さい。

B.内容物

製品及び付属品、内容物全てを記してあります。取付け作業前に必ずお読み下さい。

C.取付けについて

製品の取付けに関して記しています。取付け作業をされる方は必ずお読み下さい。

D.注意事項

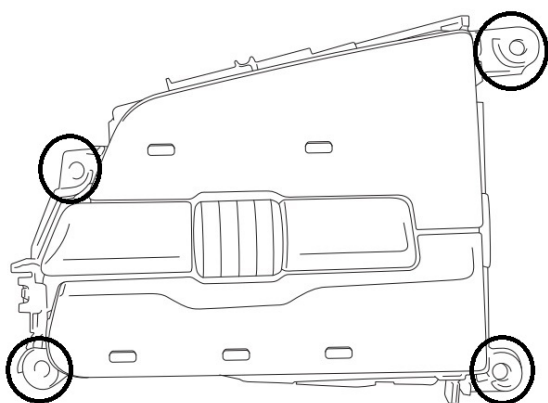
製品及び取扱説明書の内容についての注意を記してあります。取付け車輛の使用者、取付けされる方は必ずお読み下さい。

A.使用目的・概要

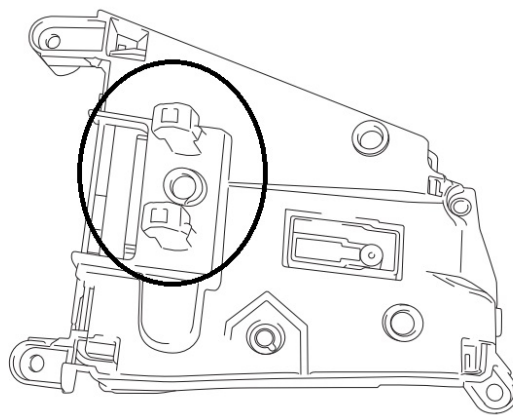
- ・ 日産フェアレディ Z RZ34 MT 車の純正ステアリングスイッチをスポーツタイプステアリングホイール及びステアリングボスに移設する製品です。この目的以外で使用しないで下さい。
- ・ 本製品はワークスベル製ショートボス 631S、ワークスベル製ラフィックスシリーズと併せて使用します。単品ではステアリングホイールを車輛に取付けることができません。
- ・ ラフィックス GTC は装着できますが、GTC キーロックはご使用になれません。
- ・ 他社製ステアリングボスには使用できません。
- ・ 標準的な直径 350mm 以上のスポーツタイプ 3 本スポークステアリングホイールの使用を想定して設計されています。それより小さい直径のスポーツタイプステアリングホイールや 3 本スポーク以外のステアリングでは使用状況を検証しておりません。(弊社オリジナル品を除く)

● 純正ステアリング分解作業について

- ・ 純正ステアリングからスイッチを取外す際、構造上、必ずと言って良い程、スイッチが破損してしまいます。
- ・ スイッチを固定する 4 本のタッピングスクリー部分とステアリングのウレタン部分に差し込む足が折れる可能性があります。



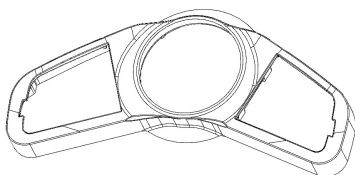
タッピングスクリー固定部分



足部分

- ・ 上記足部分が折れるだけの場合は問題ありませんが、その他の部分の破損の程度によっては、その後、正常に作動しない、警告灯が点灯してしまう、等の可能性があります。
- ・ 2024 年 2 月現在ではスイッチのみの部品販売を日産自動車では行っておりません。
- ・ 足部分が折れるだけであれば純正ステアリングに戻すことは可能ですが、完全に復元することはできません。その他の部分の破損では純正復元が不可能になります。
- ・ 下記分解作業を正しく行ってもスイッチが破損する可能性があります但弊社では責任を負いません。
- ・ 上記リスクをご了承の上、分解作業を行って下さい。

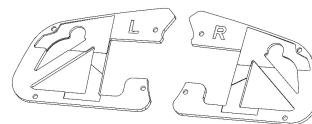
B.内容物



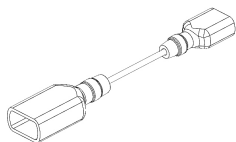
スイッチマウントアッパー



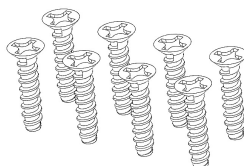
スイッチマウントロー



バックプレート(左右)



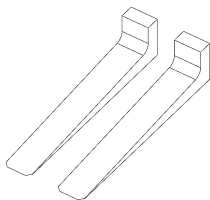
ホーン変換コード



サラ頭タッピングスクリュー-3X14-8 本



ナベ頭タッピングスクリュー-3X8-3 本



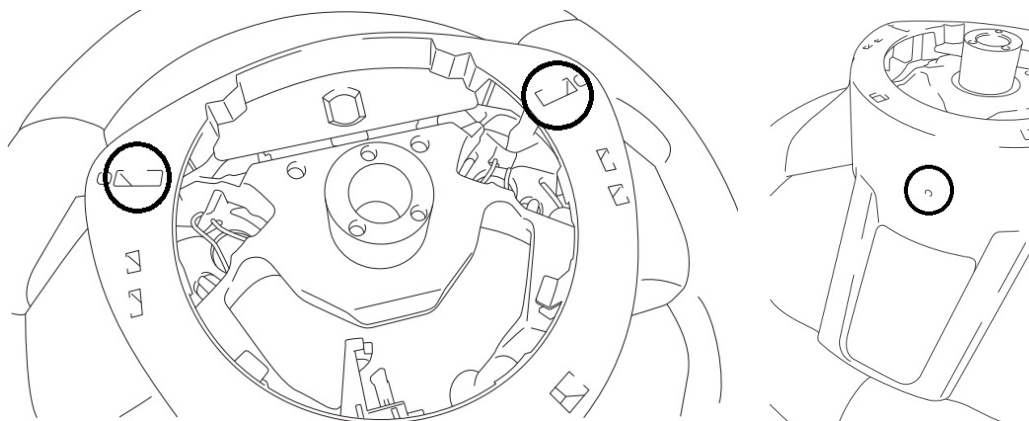
スイッチ取外しジグ-2 本

純正ステアリングの取外し・ステアリングスイッチの取外し

分解作業の前に、ハーネス類を外して下さい。ステアリングスイッチのコネクタは左右共通なので後でどちらか解らなくならないように、必ずマーキングしておいて下さい。

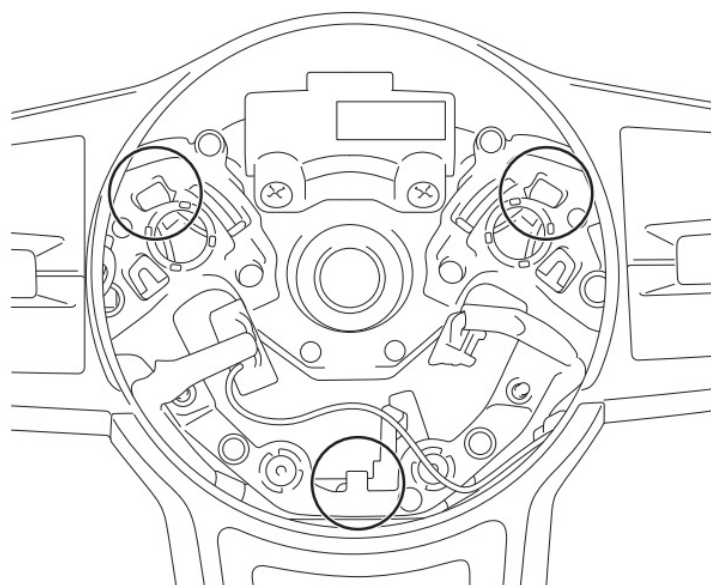
①純正ステアリング取外し

エアバッグモジュールを外します。ステアリング裏の三カ所の穴にピック等を差し込み、スプリングを外して下さい。エンジンをかけてステアリングを左右に回す必要があります。



丸部分の左右角穴

丸部分の穴



純正ステアリング内側

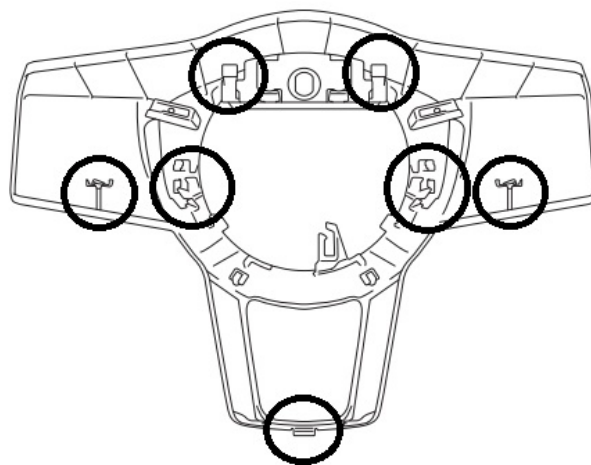
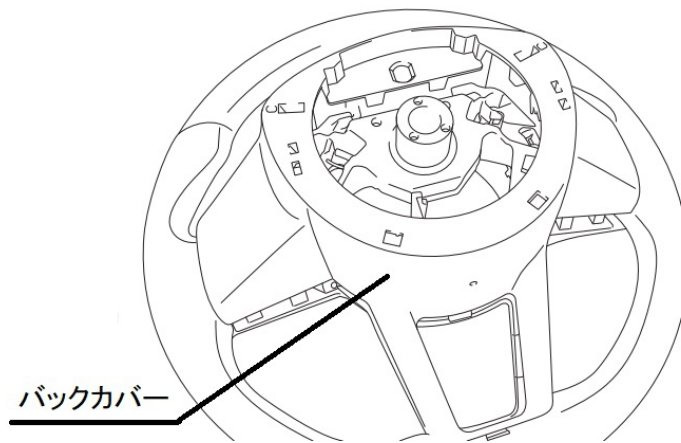
丸部分の左右上部のスプリング、下部プラスチックの爪を外して下さい。

エアバッグモジュールがステアリングより浮いた状態になったら、ステアリングを直進位置にし、バッテリーターミナルを外し、10分程経過させてからエアバッグモジュールの裏のコネクタを抜いて下さい。その他のコネクタもスパイラルケーブルから外し、センターナットを緩めてステアリングを取外して下さい。

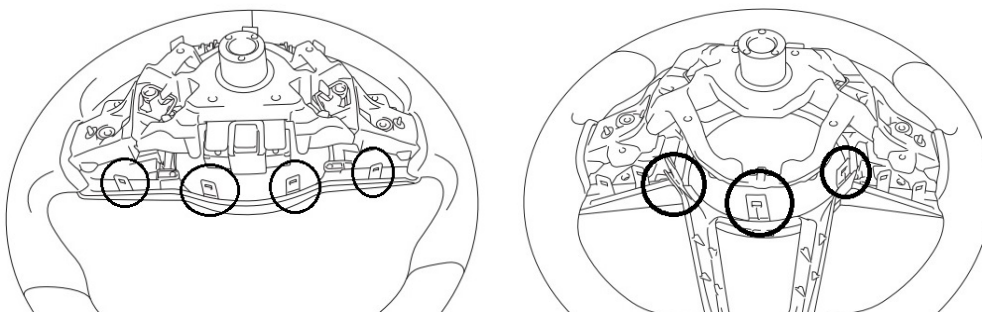
注:スパイラルケーブルは空転しないようにテープ類で仮止めして下さい。

②ステアリングの分解

ハーネス類を取り除いてバックカバーを取り外します。表面の化粧パネル上下と複数の爪が噛み合っています。またバックカバーとステアリング本体も複数の爪と足で固定されています。写真を参照に慎重に取り外して下さい。



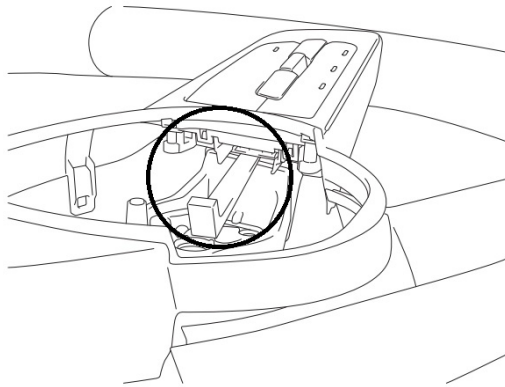
ステアリング本体に噛み合っている部分



バックカバーと噛み合っている爪

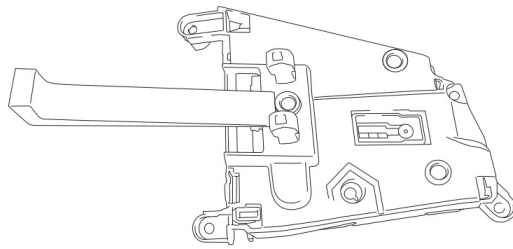
③ステアリングスイッチの分離

付属の「スイッチ取外し治具」をステアリングスイッチとステアリングフレームの間に差し込みます。最初は1本のみ中央部分に差し込んで下さい。

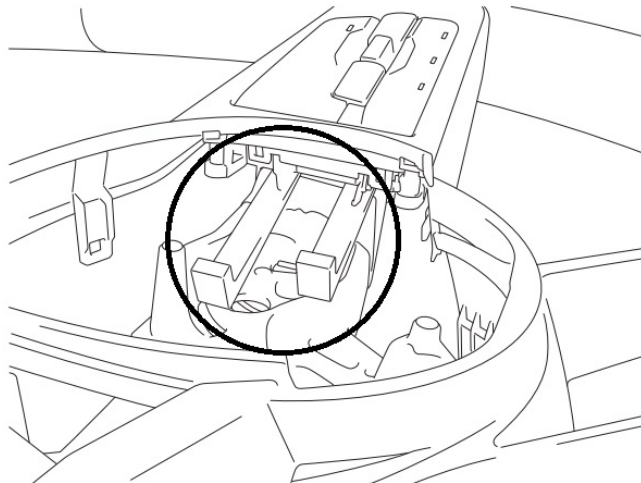


スイッチの裏から見た状態です。

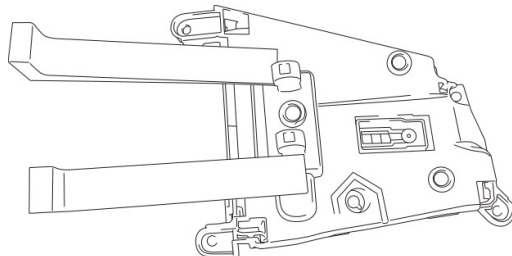
中央の丸い部分に、治具の先端が当たるまで挿すと、スイッチが少し浮きます。



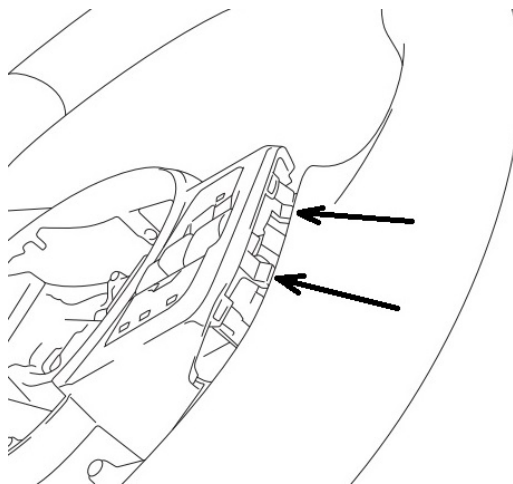
浮いた状態になったら2本目のスイッチ取外し治具を使って、スイッチ下の両脇に挿し込んで下さい。



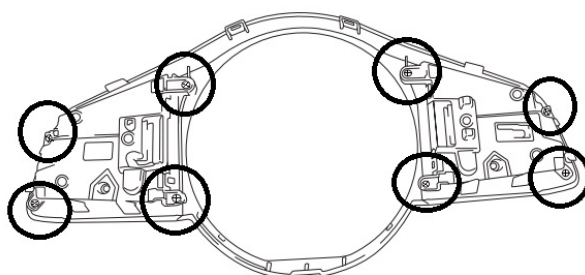
スイッチの裏から見た状態です。足部分の外側を通すようにして挿し込みます。



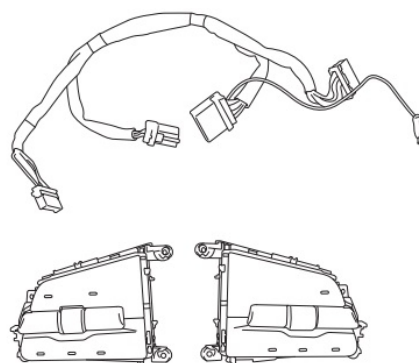
2本の治具を挿し込んでいくとスイッチが浮いて行くので、表面パネルの外側の爪(矢印部分)がステアリングから外れるまで挿し込んで下さい。
反対側のステアリングスイッチに同じ作業を行って下さい。



右の状態になりましたら丸印のタッピングスクリー-8本を外して下さい。



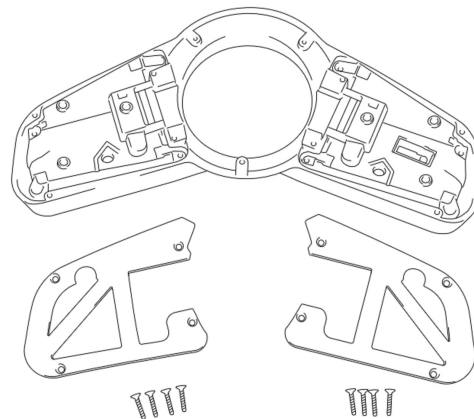
これで分離作業は終了です。ステアリングスイッチ左右とハーネスを使用します。



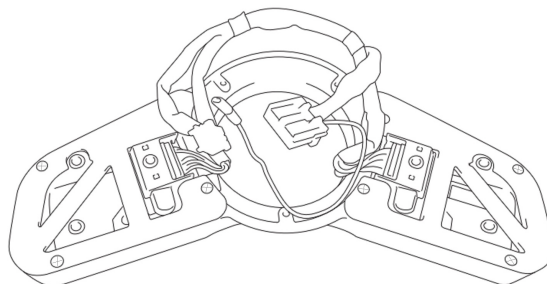
C. 取付けについて

1、スイッチマウントアッパーにステアリングスイッチを取付けます。バックプレートには左右があります(R,Lの文字面がスイッチ側です)。サラ頭タッピングスクリュー 3X14 を使用します。表面から見てスイッチが適切な位置になるように調整しながらネジを締めて下さい。

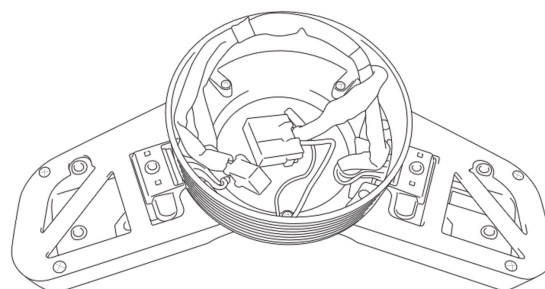
注: 締め過ぎにご注意下さい。



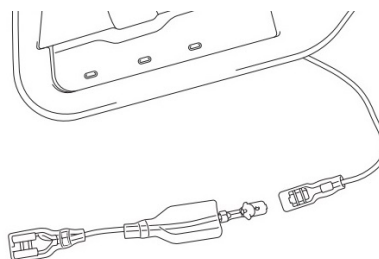
2、ハーネスを取付けます。



3、スイッチマウントローアをナベ頭 M57ランジナット-4 個 3X8 でスイッチマウントアッパーにネジ留めします。

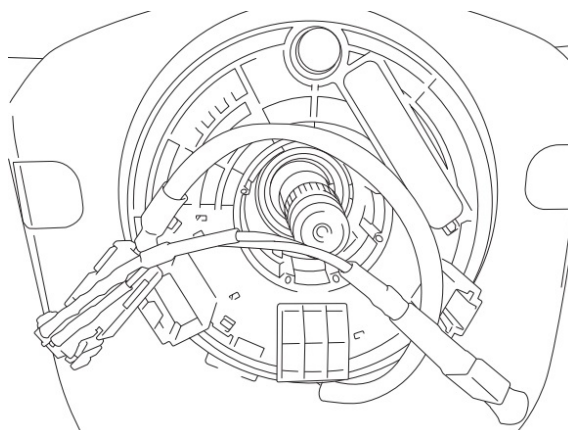


4、ホーン変換コードをホーン配線に差し込みます。

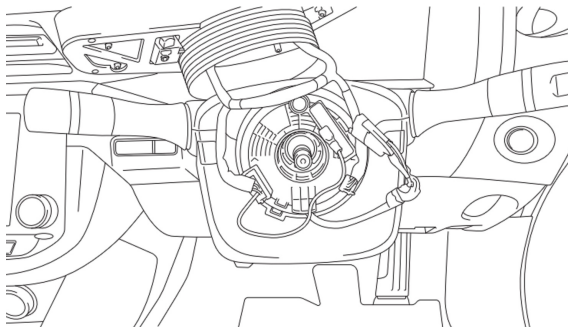


5、車体のスパイラルケーブルから出ているエアバッグコネクタにエアバッグキャンセラーを差し込み、絶縁テープ等で固定して下さい。差し込み端子 2 本に極性はありません。

注: テープ等で固定しないと接触不良が起き、警告灯が点灯してしまう可能性があります。

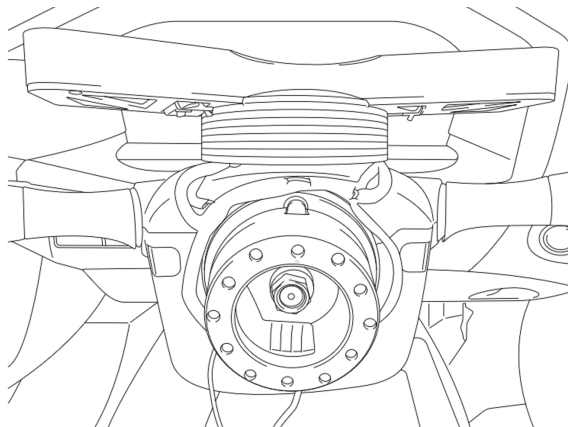


6、手順3で組み立てたスイッチマウントをコラム上部に置き、ハーネスのコネクタ類をスパイラルケーブルに接続して下さい。

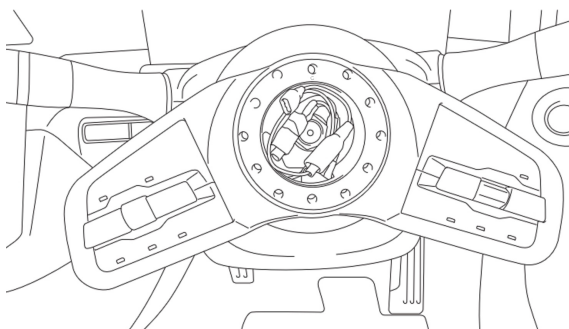


7、ボス 631S を装着します。トップマークを 12 時にしてステアリングシャフトに挿入、付属センターナット・ワッシャを用いて 25～30Nm (2.5～3kgfm) のトルクで締めて下さい。

注:センターシャフトのテーパ部分を脱脂洗浄し、必ずトルクレンチをご使用下さい。



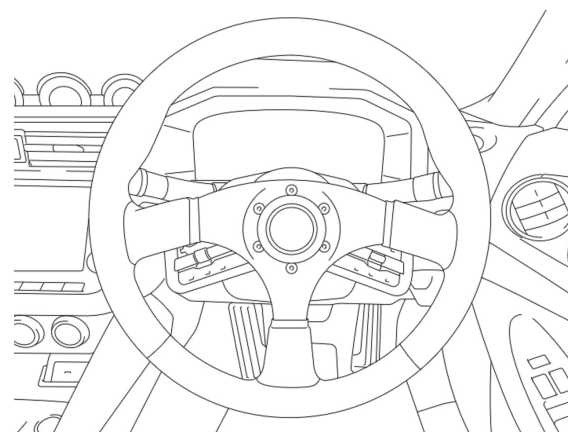
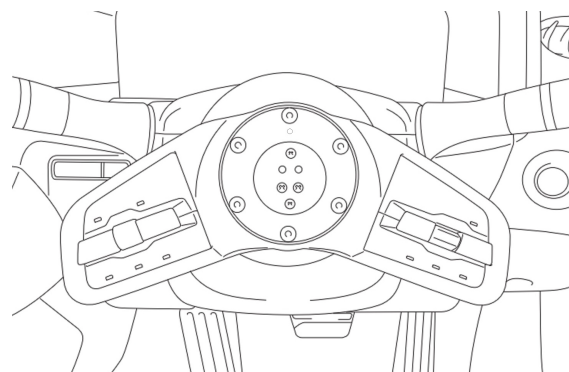
8、ホーン配線、エアバッグ配線をボス内部に引き込み、スイッチ等の配線を挟まないようにしながらスイッチマウントをボスに軽く被せて下さい。



9、スイッチの位置を調整してからラフィックスシリーズとアースリングをボルトで固定するとスイッチマウントがボスに押し付けられて固定されます。

ラフィックスシリーズの取付けはそれぞれの取扱説明書を参照して下さい。

ラフィックスシリーズとアースリングを併用しない場合、マウントが固定できずに回転してしまうことがあります。薄い両面テープをボスとマウントの間に貼付して固定して下さい。



D.注意事項

- ・取付け完了後、ステアリング操作をして異常が無いか確認して下さい。正しい配線の取回し等がなされず、車輛側のスパイラルケーブルを配線類で押していると、ステアリング操作が重くなる場合があります。また、その状態で運転を続けると車輛部品が破損する恐れがあります。ご注意ください。
- ・ 車輛の運行前には必ずスイッチマウント、スイッチが固定されていることを確認して下さい。運転中にスイッチが脱落するとステアリング操作ができなくなり大変危険です。
- ・ 本製品を改造してご使用にならないで下さい。
- ・ 取り外した純正ステアリングや部品は大切に保存しておいて下さい。なんらかの事由により、純正状態に戻す際に必要になります。弊社ではその責任を負えません。
- ・ 弊社製品は慎重に検査し不具合がないことを確認してから出荷しておりますが、万が一品質に問題がある場合は弊社までお問い合わせ下さい。このとき製品を一度弊社までお送り頂く場合が有り得ます。上記純正部品が必要になりますし、ご自分で作業されない方は工賃が派生することが想定できますが、弊社ではこの純正部品、工賃等は一切保証致しかねますので何卒ご了承ください。

製造元:株式会社ワークスベル

〒391-0011 長野県茅野市玉川 8507

問合せ先: ワークスベル・カスタマーセンター

TEL: 0266-70-1477

E mail: support@worksbell.co.jp